

野田 九条通信

2020年6月173号
5月合併号

野田・九条の会 事務局
04-7122-0502



野田・九条の会

検索

新型コロナウイルス禍

国家と個人その命を問う

2月のダイヤモンドプリ
ンセス号に始まった日本の
新型コロナウイルス感染禍は5月
現在わずかに収束に向かっ
ているかとも思われます。

野田・九条通信の5月号

はこの影響で発行できず、
6月号との合併号となりま
した。4月の緊急事態宣言
以降、前後の自粛要請を合
わせて約三か月、これまで
の当たり前と違っていた人
と人との交流が、どんなに
大事なものであったか改め
て実感しました。そんな大
事な人間関係をじつと我慢
し、自分と家族、そして他
人の命も同じように守ろう
と考えたこの三か月でした。

この間にも政府の対応の
まずさで、治療も受けられ

ず命を絶たれた方々が無念
の晴らしようもないままに
死者数に加えられていきま
した。派遣がこんなに危険
な働き方だったなんて！

突然の雇止め悲痛な声
が上がっています。ネット

カフェ暮らしを余儀なくさ
れていた4000人もの人
が職をなくし、カフェの営
業自粛で行き場も失いまし
た。格差が拡大し、生きる
のが困難な社会になってし
まっている「経済大国ニッ
ポン」の現実、命と暮らし
の土台のもろさがコロナ禍
であぶりだされました。

今、政府に求められるの
は国民の命を守る責務を果
たすことです。国民の抱え
る恐怖と暮らしの困難に向

き合い迅速に対応する施策
です。コロナによる緊急事

態を口実に、「緊急事態条項」
を盛り込む改憲を目論む安倍政
権に不信が増すばかりです。

対して強力な制限措置を実施
しているドイツでは大統領が国
民に呼びかけました。「強力な
制限措置を受け入れ、忍耐と自
制心を持って努力を積み上げて
きたのは、厳格な強制があつた
からではないはず。責任感

ある市民一人ひとりが支える、
生きた民主主義が根づいている
からのはずです」と。国民一人
一人が独立した個人として生き
国に向き合い、一方国は常に主
権者である国民から
信託された存在とし
て、その責務を果た
すべく国政にあたり、
両者が緊張関係を保
ちつつ、相互に影響
しあっている…、そ
の国にして言いた
言葉なのだ胸をう
たれました。

望んでもいない改憲

の旗を首相に振られ続け
ています。コロナから注
意深く身を守りつつ、何
がこの事態を招いてし
まったのか自身に問いな
がら「責任感ある市民一
人一人が支える、生きた
民主主義が根づいている
国」にむかう一歩を踏み
出しましょう。



PCR検査
37.5度

で4日間自宅待機

この目安は厚労相が言っ
た国民が誤解したのでは断じて
ありません。

今月の予定です

コロナウイルス対策で中止となること
があります。HP また電話で確認のう
えご参加ください。
04-7129-4297 田口

6月9日(火) 16:00~17:00
9の日 九条通信配布・ボードでアピール
行動 梅郷駅 野田・九条の会

6月13日(土) 13:30~16:00
野田・九条の会 6月例会 検察庁法改正案について
櫻のホール 研修室 野田・九条の会

6月19日(金) 16:00~17:00
9の日 九条通信配布・ボードでアピール 雨天中止
行動 愛宕駅 東口 野田・九条の会

6月29日(月) 16:00~17:00
9の日 九条通信配布・ボードでアピール 雨天中止
行動 川間駅 北口 野田・九条の会

■ この政権は何を考えているのか

緊急事態宣言があった後の4月10日、自民党憲法改正推進本部は緊急事態対応の在り方について党内議論をし、その中で安倍首相は「不十分となれば、新たな法制も当然視野に入れなければならない」と発言、かねて用意した改憲四項目の一つである緊急事態条項を進めるよう指示している。

ここからは改憲を急ぐこの政権が何を考えているかを推測してみたい。

く先日改定したコロナウイルスに対処するための特措法では権限が中途半端にしかできなかったから改憲し強めよう。習近平訪日を見送り、さらにオリパラを一年後と決断した。今重要なことは政権の維持と憲法改正だ。コロナ問題の収束は先の見えないことはわかっている。森友・加計、桜も引きずっているいま国民の視点を変える必要がある。コロナ問題は長期に及ぶから逆にこれを利用する方策を考えよう。いまピッタリなのは緊急事態条項だ。改憲できれば強権をもって抱える問題の全てを抑え込める。そして政権の任期は無期限とできる。コロナの感染者、死者数の推移が厳しくなればなるほど国民は政府になんとかしてくれとなる。死への恐れが身近になればなるほど国民は強権をもって救ってくれる政府を求めるようになる。我々は国民の要求に呼応し、このタイミングを狙い緊急事態条項が必要だと切り札として出せばいい。今回の公務員定年延長法案では検察人事を手中に収めることができなかったが時間はある。後はタイミングを図るだけだ。>

さて、この推測は的を射ているか、外れか。この国の主権者は国民であることだけは今も変わっていない。だが一人ひとりの自覚なしではどのようにでも変えられてしまう。危機がヒタヒタと迫ってきている。



■ 責任は私たちにあります

私たちはいまウイルス禍に翻弄され暮らしがどうなるか、我が身と家族の生命の危機に怯えている。

政府は外出を制限し営業の自粛を求めるが安心な生活を補償するとは決して言わない。米英仏独などでは生活補償を主体とした政策がすでに行われていると報じられている。しかし日本政府は国民の窮状

に後手後手で、失望感ばかり募らせている。

厚労相はPCR検査基準について「われわれから見れば誤解」としらを切り、検察庁法を自己保身のために強引に変えようとするこの政権を変えられないのも私たち国民だ。このところの内閣支持、不支持率は激しく変動している。支持する理由は代わる人がいないであるが、いいかえればそれなりの人物がいれば変わった方がいいともとれる。不支持のトップは人柄が信頼できないであり、両者を合わせればすでに政権を変えることができるところにきている。森友・加計・桜で誤魔化し続け、コロナ禍で国民の生命を最優先にしないことがハッキリした政権を見限れない責任は私たちにある。



■ 国民の信頼に値する政権に変える

民主主義を確立した欧米の諸国には外出禁止令で強行に取り締まりできる緊急事態条項は確かに存在する。これらの国の国民が厳しい外出禁止令に従うのは政府への信頼があればこそだ。日本はどうなっているかといえば、憲法13条に「国民の権利は、公共の福祉に反しない限り…」と人権を制限できる幅を認めている。そこでコロナ禍のいま人権を制限させていいかといえば、文書改ざん、破棄、記録保存をしない、そして国民の生命を軽んじ、これら不始末を立件させないように検察までをも抑え込もうとする政権には到底許すことはできない。



このところのコロナ禍でアベノミクス経済を守ることのみ重視し、弱い人を助けることが最も大切だとする心の欠如がハッキリした。国民の生命を最優先としない信頼に値しない政権は退場させなければ犠牲者の増加を食い止められない。「責任を取ればいいというものではない」と言い放ち、己の責任さえ自覚できない首相が、改憲でさらに強権を得ようとすることに、私たち主権者は責任ある判断をしなければなりません。ウイルス禍中であっても一刻も早くまともな政権に変えないと、国民も国も大きく傷つけられてしまう。



疫病の記録

関一

S Fのバイオハザードかと思わせる病魔のニュースで年が明けた。五輪を優先する政権の稚拙な対応が、今の状況をもたらしてしまったのはご存知の通り。現政権の愚策に「殺される」との想いがよぎり、楽しかるべき初夏の心象風景は一変した。学びを奪われた子らが公園で静かに遊ぶ姿をみるにつけ、怒りとともに、涙する。

在宅勤務なのでついTVを点ける。各番組出ずっぱりの岡田氏のコメントは的を射ている。専門家会議の疫学者は社会防衛を論ずるので個々の人生などはどうでもよい。^{*}七三一部隊を引き継いでいるとは言いすぎか。だとしても、検査せず根拠を示さず物を言うのは科学者ではない。「検査しないのは、学生に試験課さずに成績つけるようなもの」とは姜尚中氏の言葉。

百年前のスペイン風邪(大正七～九年)は日本でも約22万もの死者を出した。大正十年の内務省衛生局発行の記録書「流行性感冒」(約500

頁)をネットで入手した。


<第一章 海外諸國ニ於ケル既往ノ流行概況>
は国内外の感染、死者数、死者の病理解剖、ワクチン、マスクの効用等に言及。

<第二章 我邦ニ於既往ノ流行概況>

古くは、貞観四年(八六二年)～咳を伴う病による死者甚だし～に始まり、インフルエンザ、パンデミック等の言葉も。流行第二波より第三波の方が、死者が多かったとある。病原菌不明なるも陶器を抜けるため濾過性病原菌とされた。

百年前の文書であるが、学ぶべき点も多く、これを精査解析した論文(池田ら2005年)もある。

これから百年後、このコロナ禍についての公文書は後世の人々の検証に耐えうるものとして残されるだろうか、嘘まみれの報告書でないことを願うが、現政権の文書改ざん、廃棄等々想起するとまことに心もとない。5月4日の新聞によれば、専門家会議の議事録はとっていないという。

 **731 部隊** 第二次世界大戦期に大日本帝国陸軍に存在し、旧満州に拠点置き兵士の感染症予防などの研究・開発機関であったが人体実験や生物兵器の実戦的使用を行っていたとされる。



子どもたちに何を

吉田妙子

世界中がコロナ禍に苦しむ中、海外のニュースでは感染した人が退院することを共に喜び拍手で出迎える人々や、自身を守る防護服もマスクも不足する過酷な状況下で患者の治療に当たる医療従事者への感謝と敬意を表す人々の姿が子供と共にあった。この姿にどれほどの人が励まされただろう。

一方この国ではこうした人々への差別と中傷、ときには家への投石まで、正義という言葉を振りかざし恐怖を与える自粛警察なる者まで現れ社会問題となっている。この違いはいったいどこからか。同じ苦難にありながらも敬意を示す社会に生きる子どもたち。彼らはここからこの精神を学び培われ受け継いでいく。

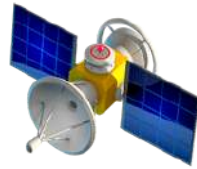
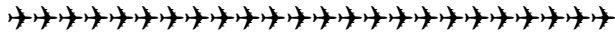
この国も憲法に基本的人権の保障としてこの

精神は謳われている。にも拘わらず社会にはいまだ根付いていない。ひとたび平時で無くなれば日本の古い体質(本質か)が表面化する。

社会は政治を反映する。子どもたちにはどのように映っているのだろう。その影響ははかりしれない。このような社会は彼らに何を残すのだろう。有事の今、国は国民を守る強い意志とその能力はあるのか。日々状況が変わりこの苦難に長期に向き合わなければならない現実を前にして問われている。有事だからこそ憲法に基づいた政治が行われなければならないと強く思う。また今あるこの苦難から私たちは何を学び何を子どもたちに伝えられるのか。ひとつはどんな状況の中にあってもまず弱者が守られ人を尊重する社会の姿であり、人としての優しさという強さを。思えば現憲法も先の大戦の苦難を経て生み出され今日に受け継がれている。

コロナ禍を新しい流れに

使わないと損です 世直し道具



今回のコロナ感染で人々は今までの価値観を疑い、見つめ直すことを突きつけられているように感じる日々です。市民運動でもいままでの様な運動が成り立たなくなりました。デモや集会が出来ず、声を出して叫ぶことも出来ない。ミーティングも出来ない状況に追い込まれています。

しかし、嘆いていても始まりません。この間新しい流れも生まれています。その流れを捉え新たな運動を起こす必要性が求められているのではないのでしょうか。5月14日の東京新聞の社会面には「あふれる抗議#900万件」 検察定年延長問題Twitter投稿と大きな記事になっています。日本の芸能人は政治的な発言はしないとの不文律を破り、有名人が多くNOの声を発信しています。今までにない異例な出来事です。

昨年「平和のつどい・のだ2019」でお招きした伊藤千尋さんは「韓国ロウソク革命の成

功にはSNSが大きな貢献をした」と話されて、積極的に利用するように呼び掛けていました。いま世界の市民運動はSNSを抜きには考え

られません。またコロナ禍で一躍脚光を浴びているのがZOOMです。自粛でミーティングが出来なくなつた代替ツールとしてZOOMを利用してのミーティングが盛んに行われています。この流れに乗って我々の活動にも利用することが必要で、若者と連携するチャンスにもなると思われま

す。FacebookやLINEもそれまでのコミュニケーションとは全く違う利用の仕方があり、個人的には使わないと損と思う日々です。

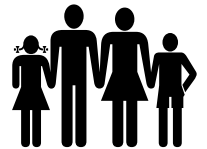
SNSは一般の個人が社会に向けて映像までも発信することができる時代のツールです。

世直しの道具として是非多くの方にトライしていただきたいと思う日々です。

坂口秀雄



本当に子どもたちを大切にしているのか



いま、世界中がコロナウイルスで右往左往している。グローバルか非グローバルか、完全自由か制限自由か、資本主義か社会主義か白か黒か等々議論百出だ。この中で米国トランプ大統領とイギリスのジョンソン首相、ブラジルのボルソナロ大統領に共通点がある。科学への無知と傲慢そして利益最優先だ。トランプの安倍首相と彼のゴマスリ取り巻きや学者は問題外として、コロナウイルス禍は自然現象であり万人に共通かつ平等に攻撃に来る。すなわちウイルスは人為的なものではなく、科学ひいては医学の範疇であり、トランプ流の脅しや金ましてや買収は全く無力である。彼らはこの事を全く分かっていないか分かろうとしない。

無知なリーダーの犠牲になるのは、いつも弱者となる子ども、高齢者、そして貧困者である。自分のことばかり優先せず、また利益や利便性第一を止め、更に極端な考えに走らず、お互いの長所短所を認め合って進める事は出来ないだろうか。その為にはほどほどに満足する、すなわち足るを知ることはないか。

学童保育でも最近利己的な親を見ることがある。子どもを預けっぱなしにしてあとは知らんという親が増えた。本当にこれで良いのか。子どもの将来はこれで良いのか。

子どもを大切にしない社会は将来必ず大きなしっぺ返しが来る。

羽賀 傳